

公益財団法人日本宇宙少年団 令和4年度 事業計画書

はじめに

令和4（2022年）年度は、昨年同様にコロナ禍に対応したオンライン講義に加え、感染予防対策を施したスペースキャンプを可能な限り実施し、当財団の目的でもある宇宙及び科学をテーマとした体験学習を、オンライン式と対面式を組み合わせ実践するハイブリッド型プログラムで子ども達の宇宙のホンモノに触れ学ぶ機会を提供します。

また、コロナ禍で全国の分団活動や団員数の減少対策として、活動委員会が中心となり全国の分団が共通して実施できるプログラムの検討、実施により、活動停滞に歯止めをかけたいと思っております。

公益財団法人日本宇宙少年団の活動は、全国の指導者の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助下さる関係各位のご理解とご支援により遂行できていることにつきまして、これまで同様に心より感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

I. 人材育成事業（公1）

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信（宇宙教育テレビ、宇宙情報誌等）事業
3. webによる普及啓発事業
4. 将来の特定の活動「2020年宇宙の旅」事業（特定費用準備資金）

1. スペースキャンプ事業

(1) 種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島で宇宙・自然・交流をテーマとした体験学習を行います。

JAXA種子島宇宙センターの見学や専門家によるオンライン講義やロケット工作と打上げ、そして種子島の歴史や自然を体験するハイブリット型プログラムを行います。全国から集う異年齢の小中学生を対象に、コロナ禍でも子ども達に「本物」に触れ学ぶ喜びを分かち合い、興味・感動を引き出す機会を提供します。

時期：夏休みまたは春休み

場所：鹿児島県・種子島

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

(2) 筑波スペースキャンプ

オンラインの利点を活かし、有人宇宙活動をテーマに、地上と宇宙の交信を模擬し、様々な課題解決にグループで挑戦します。課題（ミッション）を通してコミュニケーション力を養い、宇宙飛行士の心身ともに鍛えることの大切さや宇宙開発の現場のチームワークの重要性について専門家から講義を行います。これまで対面式で行ってきたモデルロケット工作もオンラインで挑戦し、打上げからライセンス取得まで一貫して行います。

時期：冬休みまたは春休み

場所：JAXA筑波宇宙センター

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

2. 情報発信

(1) 宇宙情報誌等

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として「宇宙のとびら」の編集に協力します。この情報誌「宇宙のとびら」をJAXA宇宙教育センター（発行）及び公益財団法人日本宇宙少年団（編集協力・団員配布）の連携により、年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、団員や賛助企業等への発送をはじめ、分団活動や財団事業で配布し広報活動等に役立てます。

(2) YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団の情報等を年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、情報誌「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

(3) 団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を制作・送付します。

(4) 団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、分団活動及び団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。

3. Webによる普及啓発活動

(1) 分団等連携団体との協力推進

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、分団等連携団体との連携を図るため、活動委員会が中心となり、全国の宇宙少年団分団との協力推進を行うとともに、体系的な指導方法や共通した育成方法を毎年分団長が集う「分団長会議」の場で実践例を紹介したり、意見交換及び交流等を行います。なお、分団長会議の場で活動委員会が提案する共通プログラムをweb上で開催し、各分団の参加を促します。昨年度はコロナ感染拡大に伴い、Zoomを使っ

たりリモート会議形式で実施しましたが、今年度は、11月26日(土)～27日(日)に、都内で開催する予定です。

(2) 活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集やリーダーのためのガイドブックをwebで公開し、活動の素材提供、安全管理や子ども理解等のノウハウを提供します。

(3) webを通じたイベントの取組み

財団主催及び共催で実施するスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、一般を含む各種事業の参加募集や実施結果等を、webを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。また、YouTube Liveなどのライブ配信機能を活用し、全国各地の団員が宇宙について学び、質問ができる機会を提供します。

(4) 講師派遣等

社会教育団体等で活動する指導者の育成を目的とするセミナーを、JAXA宇宙教育センターと当財団が主催となり、開催地域と連携協力しながら実施します。また、青少年や一般を対象にその他事業として、外部のリモートによるイベント、対面によるイベント等に講師を派遣し、宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を行います。

4. 将来の特定の活動（特定費用準備資金）

2020年宇宙の旅

地域に根ざした活動を充実し、同じ目標に向かって成長する全国組織を目指し、目標を達成させるために全体活動プログラムとして、「2020年宇宙の旅」事業に取り組み、活動の輪を広げています。

本事業は2020年で終了の予定でしたが、コロナウィルス感染拡大に伴い、一部を延期して今年度実施します。

時期：11月26日(土)、27日(日)

場所：都内

対象：YAC団員及び指導員

内容：全国の指導員による活動発表、教材研究発表、情報交換会など

II. 管理運営等

1. 会員

ここ数年の分団設立減少に加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年は新規分団設立が1件に留まっています。また、連携団体である分団活動もオンラインを駆使しながら活動を続けていますが、団員減少にも更なる工夫が必要な状況となっています。

昨年度、リモートを取り入れたイベントでは、応募人数に対し当日の参加人数がかなり低いという結果が見られました。子ども達もリモートにも慣れてきて、イベントのYouTube映像を後から繰り返し見ている結果が見受けられました。このことから、ライブだけでなくYouTubeで見られる工夫も取り入れ、更に新規入団に繋がるよう、YouTubeも活

用していきます。

また、賛助会員も毎年数件ずつ減る傾向にありますが引き続き将来を担う青少年活動への応援を継続いただけるよう積極的に働きかけていきます。

2. 事務局体制

(1) 要員

事務局は、昨年度より1名減少し、事務局長と旅行業務取扱責任者を併任する常勤1名と事務局員常勤2名、非常勤1名の計4名体制で事業の運営及び管理業務に当たります。また、スペースキャンプ事業やWebを通じた事業（リモート講義やイベント）には、当財団役員が講師となり、専門性を活かして積極的に関わってもらいます。

(2) 寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、各それぞれの事業を通じて営業、PRに積極的に努めます。

以 上